

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター第20回アジア歴史講演会

古代製塩と自然環境

ウズマキゴカイとクロスナ層をキーワードとして

日時：平成28年7月23日（土）14:00~16:30

場所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージアム2階M24教室

村上恭通 古墳時代の製塩活動と環境変動
(愛媛大学)

山崎純男 古代製塩技術とウズマキゴカイ
(元福岡市文化財部)

—福岡海ノ中道遺跡の発掘調査を振り返って

愛媛大学が5年にわたり実施している土島町宮ノ浦製塩遺跡の調査から、古代の製塩活動は、その時の生業や経済の問題だけでなく、自然環境とその変化にも大きく関係していたことが分かってきました。その研究の視点・手法は、20数年前に調査した福岡県海の中道遺跡に最初の萌芽がありました。ウズマキゴカイとクロスナ層、この聞き慣れない単語が、古代製塩を解明するキーワードです。



海ノ中道遺跡出土のウズマキゴカイ



愛媛県宮ノ浦遺跡

主催：愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター

〒790-8577 松山市文京町3番 HP: <http://www.cca.ehime-u.ac.jp/aic/>

Tel/Fax: 089-927-8391 Email: kotetsuAIC@gmail.com